

市長記者会見記録

日時：2024年5月7日（火）14時00分～14時17分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和6年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について【こども未来局】

<内容>

【議題】

《令和6年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は「令和6年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について」となっております。

初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 本日は、令和6年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について報告させていただきます。それでは、お手元の資料1ページを御覧ください。

令和6年4月1日現在の保育所等利用待機児童数でございますが、まず保育所等利用申請者数は、前年度比で667人増となる3万7,158人となりました。また、利用児童数も前年度比547人増の3万5,515人となり、これはどちらも過去最大の数値でございます。

また、希望する保育所等に保留になった方は、前年度比で120人増の1,643人で、各区役所で、入所保留となった方々の保育ニーズに応じたきめ細かなアフターフォローを行った結果、令和6年4月1日現在の待機児童数は、4年連続でゼロとなりました。

2ページに参りまして、平成28年度以降の利用申請者数等の推移でございますが、下段の表を御覧ください。令和6年4月1日現在の就学前児童数につきましては、前年度比で2,851人の減となりました。しかしながら、申請率につきましては、平成27年度以降、対前年度比2%を超える伸びを示しておりまして、今回、過去最大の55.0%となっております。

3ページに参りまして、待機児童対策における課題、取組でございます。まず、本市の待機児童対策を取り巻く課題として、主に3つの内容を挙げております。

1つ目は、利用申請者数の増加でございます。就学前児童数については減少していますが、子育てと社会参加の両立を目指す家庭の増加に伴いまして、保育所等の利用を希望する方の割合も引き続き上昇しています。

2つ目として、保育ニーズに対応した受入枠の確保でございますが、保育ニーズの変化を的確に把握しながら、受入枠の確保や情報提供をしていくことが必要となっております。

3つ目として、保育従事者の増加に伴う保育の質の確保でございます。保育施設の増加に伴い、不足する保育人材の確保をしながら、人材育成にも継続的に取り組む必要があります。

本市においては、近年の全国的な傾向と同様に就学前児童数は減少しておりますが、その一方で、依然として利用申請者数・申請率は伸び続けておりまして、待機児童の継続的な解消に向け、これまで以上に利用者に寄り添った丁寧な支援を行うことが重要となっております。

令和6年度から新たに実施した利用者支援の取組として、保育所等利用調整基準の見直しによるきょうだい同園入所の優先的取扱いや、認可保育所等の保育料のきょうだい減免の拡大など、多子世帯支援の拡充を図ったところでございますが、今後も、保育のニーズの変化や保育事業者の状況等を的確に見極め、需要と供給のバランスを図りながら、市民の皆様が子供を安心して育てることができるよう、より一層きめ細かな保育施策を推進してまいります。

以上で、令和6年4月1日現在の保育所等の利用待機児童数についての説明を終了します。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社の記者様、よろしくお願いします。

【読売（幹事社）】 幹事社の読売新聞です。

4年連続で待機児童ゼロということで、市長の受け止めと、具体的に今年度はどういったところを意識して庁内会議をやってきたかみたいなのがあれば教えてください。

【市長】 各区役所の取組にしても、本庁の取組にしても、毎年いろんな改善をしてきています。特に丁寧に、利用申請された方のニーズに合うような取組を行ってきておりますけれども、まずは、かなり、最近では市全体に増加しているというよりも、局所的なニーズというのが出てきていますので、それに合わせた保育所の受入枠の確保、整備もそうですし、多様な保育枠というものを、うまく連携しながらやってきた成果が表れているんだと思います。引き続き、蓄積されたノウハウを生かしながら丁寧にやっていきたいと思っています。

【読売（幹事社）】 局所的なニーズというのは、具体的にどういうところのニーズになってくるんですか。

【市長】 そうですね。例えば、今年は多摩区、幸区は、非常に当初から厳しいなということがありましたけれども、その整備というのが、土地の問題もあったりして非常に厳しいということはありませんでした。そういう意味で、多摩区全体というよりも、多摩区のこのエリアとか、幸区のこのエリアという形で厳しかったということがありますけれども、今の枠のところを少し広げていただいたりみたいなの、そういう工夫をしてきていました。

全体として、枠が余っているところも実際出てきていることは事実ですので、局所的に足りないところと、局所的に枠がもう既に空き始めているところという形では、もっときめ細かく見ていかなくちゃいけない、今後という意味で、と思っています。

【読売（幹事社）】 一方で、保留児童数が120人増加ということで、これは多様な保育

の広がり今年も広がってきているのかなと思うんですけど、保留児童数の減少とかについては、どのようにお考えでしょうか。

【市長】 これはいろんなパターンがあるんですけども、最近、今年も多かったんですけども、この保育園しか希望しないという、特定ピンポイント、この1施設、それ以外はもういいですという方も結構いたと聞いているので、随分変わってきたなということが1つと、引き続き、育休取得のための申請も多いということです、この辺りは国のほうも基準を厳格化していくという話にもなってきているので、どういうふうに国が今後示していくのか分かりませんが、この辺りは引き続き課題になるのかなと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。幹事社からは以上です。

【東京】 東京新聞です。

今お話がありました育休取得のための申請の部分ですけども、先日のレクでは、担当課のほうとしては、そもそも育休の給付金の制度自体にも課題があるんじゃないかという懸念も示されていたんですけども、市長としては、この制度とか、落選狙いの申請に対する審査を厳しくするという国の方針について、どのような受け止めをされていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 というか、この制度そのものがちょっと、普通に考えたらおかしいですよ。育休を取るためにわざわざ申請をして、保留通知をもらわなくちゃいけないという、この世の中の矛盾みたいなものは、制度そのものにやはり課題はあると思っています。普通に考えてそうだと思います。ですから、こういった実態をしっかりと国のほうにも伝えていかなければならないなと思っています。

【東京】 保護者の、落選狙いの申請をするという心理に対しては、一定の理解を示されるということでしょうか。

【市長】 というか、そうせざるを得なくなっている状況は、致し方がないと思っています。そういう決まりなので。

ただ、その決まり自体が本当にいいんでしょうかと。みんなそのやり取りをそもそもしなくちゃいけないわけで。ということで課題は感じていますので、状況については、国にもしっかり伝えていかなければならないなと思っています。

【東京】 続けてで、本年度から多子減免制度の拡充をされて、これまで東京都との比較などで、結構「市長への手紙」なども寄せられてきた部分かなとは思うんですけども、まだまだ東京都と比べると物足りない部分も当事者の皆さんにあるのかなと思うんですけども、改めて、ここの部分についてお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 これはもう宿命的な話なんですけれども、東京都と隣接していて、東京都という自治体と、私たち基礎自治体が単純比較されるというのは、この仕組み、自治の制度そのものというのはなかなか広がらないので、もどかしさみたいなものは感じています、ゆえに、こういったものは、繰り返し言っていますけれども、国でしっかりと基準をつくって対応していくべき話だと思います。

変な自治体間競争を生んでいるのが、果たして異次元の子育て支援みたいな形の、異次元の子育て対策ですか、みたいな話をやっていて、実際、自治体間で取り合っているという形で、実際は、御案内のとおり人口減少は続いていますから、出生率も上がらないということなので、それ以外のところでしっかりやっていかないといけないんじゃないかなとは思っています。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 御質問のほうはよろしいでしょうか。

【市政一般】

《ゴールデンウィークについて》

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けします。進行につきましては、幹事社、各社の皆様、よろしくお願いします。

【読売（幹事社）】 幹事社の読売新聞です。

市政と関係なくて恐縮なんですけど、ゴールデンウィーク、川崎周辺でたくさんの人が見られたなという印象を受けたんですけども、市長はどのようにお過ごしたのでしょうか。

【市長】 僕のゴールデンウィークの過ごし方ですか。比較的家にいたことが多かったです。子供の試合を見に行ったりとかというのはありましたけれども。

市内いろんなところでイベントをやっていて、とても行き切れないよなというぐらいにぎわいが戻ってきたことは、本当にうれしいですね。

【読売（幹事社）】 100周年への機運の高まりみたいなのは、感じられた部分はありませんか。

【市長】 徐々に広がりが出てきていますし、いろんな方たちが100周年のことを宣伝してくださっているイベントが徐々に増えていっていますので、そういう意味では、少しずつでも認識されている方は増えているのではないかなと思っています。

うちの担当のところも、100周年知っていますかみたいなシール投票をやったりとか、いろんな工夫をして、何とか認知してもらおうと。「知って、関わって」のところを一生懸命やったださっているし、実行委員会の皆様に一生懸命やっていただいているので、ちょっとずつ上がっていくのではないかなと期待しています。

《衆議院議員補欠選挙の結果について》

【読売（幹事社）】 また市政と関係なくて恐縮なんですけど、先日、衆院選補選が行われて、自民党が全敗して立民が3勝ということで、市長の個人的な意見として、どういうふう

に結果を受け止めたかという部分をちょっとお聞かせいただきたいと思います。

【市長】 与党が3敗みたいな話になっていますけれども、そもそも2選挙区は候補者すら出してないですもんね。だから、あんまりコメントしづらいんですけども、でも、政治とお金の話を含めて厳しい見方をされているのが表れているというのは、それは影響ないとは誰も思わないんじゃないかなと思います。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

《かわさき飛躍祭におけるブルーインパルスの飛行について》

【東京】 今、100周年の話もありましたが、飛躍祭でのブルーインパルスの飛行に対して、戦闘機が川崎の上空を飛ぶというのは、今のウクライナとかガザの情勢を考えたときに、核兵器廃絶都市としてふさわしくないんじゃないかという意見があったりとか、また、住宅密集地である川崎の上空で事故になったりするんじゃないかという不安を感じていらっしゃる市民の方がいるという話を伺ってしまして、共産党川崎市議団からも中止を求める申入れがあったと伺っていますけれども、市長として、現時点でブルーインパルスの飛行に対して、撤回をするというお考えはあるかどうかということを確認させていただけますでしょうか。

【市長】 撤回のあれは全くありません。いろんな御意見あると思います。100周年そもそもの事業が無駄だと言っている方もいらっしゃるぐらいですから、多様な、いろんな御意見はあるでしょうけれども、計画の変更はありません。

【東京】 事故が万が一起きた場合の不安を感じていらっしゃる、特に中原区中心とした市民の方、いらっしゃるのかなと思うんですけれども、そういう部分で、説明も必要なのかなと思わなくもないんですが、そこら辺についてはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 飛行機が飛ぶこと自体に、何かリスクがものすごく迫っているような、何か言うのって、ものすごく変な論理だなと思います。それ以上は控えたいと思いますけれども。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 御質問のほうはよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございます。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当